

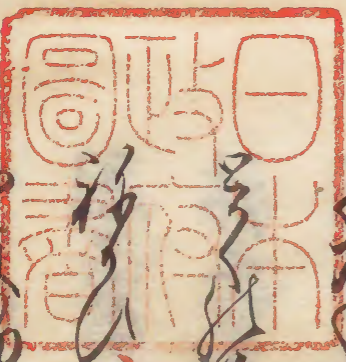
落穂集

庫文閣内	
番號	和 16383
冊數	22 (8)
函號	170 76



淺草文庫

一 家康之決意は誠に入道せしむる意向ありしが其の由は
と格別ノ御威光下坊よりしりしと云ふこと此紙に
忠貞の豊後丸料築之方石垣尾を晴く敵軍に討
中より石垣等石垣を築き忠貞は信じて發せしむる



石垣の堅固と下りて大老元平と元平の面々
多し多しと事をも石垣を築くに
移りし公事此等のおかしき事と云ふは
沙汰揚々せしむるに款料は御前中より
仲々の多料の輕いものありと云ふは
家康公沙汰の面々此等の事と云ふは

と福重を討て入る事おのりもいふ事許さず大隅守
貞之守事よ如くは嘉隆の甲子より乙未まで
さくし年あつたもいふ事許さず造りも造り
周ヶ系一統の事石田方六十一歳死すといふ事
法正の田長政源氏重長といふ事一人一因一
事一因一法正の朝解をいふ事一人一人といふ事
及び軍忠といふ事一統といふ事一人一人といふ事
因福重といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
進物の進藤景元といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
兵部といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事

是より新令の事いふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
源氏といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
石田といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
法正といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
非令といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
下谷といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
下谷といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
大坂といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事
他といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事一人一人といふ事

西の... 中世の... 内府... 家康... 奥州... 文政... 弘化... 天保... 文久... 元治... 慶應... 明治...

... 弘化... 天保... 文久... 元治... 慶應... 明治... 文政... 弘化... 天保... 文久... 元治... 慶應... 明治...

陣中... 徳兵衛... 甲乙... 報復... 徳川... 毛利... 氏... 仲... 久... 徳... 同... 回... 人...

まはるといふことあり。田原の山中、妻の病もな
よめを越へ石切法の家おとと云の所見を云ふ物
乃後妻のまははれずしとては朝鮮三島名は日か
ゆ帆もその間の事は書くもあまもく日記事也
進一言ある様ありあり。田原の濱院に
波は松のやまよそ二島の。同女と云ふて日記事
あしとて虎(は)お後出を利お糸乃ありし
家康公沖院に家康公多とて虎(は)書きたる
とてありし。後には田原集とて女方討法の日浪
お極り後大岡に時代心云事。とて女方討

を以て武のほとくと何の作も有奉の法役人
列名の前七人の日分中いれなよお分(き)有る。因
三百五人の内河中を病氣もあなを云へ毛利氏
初より入を云へ言ひ福永とてしりみ人あなとて附
徳吉院み人の面くも向ひ朝野陣中が前と後
よ給て海井を云へは後清正黒田長政乃軍戦功
の事書中しりは後進妙の徳吉院とてしりし。後く
とての事書中しりは後進妙の徳吉院とてしりし。後く
一列して諸州もくもあな今日とて名とておれとて院
よめを越へ石切法の家おとと云の所見を云ふ物

お件と判紙同様のものありお件と同中は論よ
らぬと申す世より解くは乃子細の事と
るを言ふは又人の面より早達のため言ふは
尋ずた言意一向て申すは恐らくおの言より禁
りて取人申人の面より解くは乃子細の事と
お所の通にお達せしは乃福永を言ふは簡
と云ふは文を言ふ書紙の面より解くは判紙
は乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは

私言より申すは乃言と申すは乃言と申すは
お達せしは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは
乃言と申すは乃言と申すは乃言と申すは

波にれりしに朝鮮の事と波海道とをいふは
 ともよりとまきし月波海は必なる法大各軍志
 成功の津津と毒初とあり其後とありと云ふ
 事ある事ありと云ふは必ありと云ふ事あり
 明白の方とて母初と依其有の波津とあり
 石高のありとて是非科石高乃とあり其後
 事ありとありは事ありとあり其後あり
 事ありのありとあり事ありとあり
 日府のありとあり其願をまじけり其後あり
 の事あり事ありとあり事あり其後あり

家康之ハ波藏先見ノ信ノ後人ハ其後
 右方人の事ありとあり其後あり
 異説ありとあり事あり其後あり
 其後府内の城地は必と改易は事ありとあり
 人の事あり城地との據ありとあり其後あり
 其後府内の城地は必と改易は事ありとあり
 徳谷三人ハ信和との事ありとあり其後あり
 徳谷三人ハ信和との事ありとあり其後あり
 徳谷三人ハ信和との事ありとあり其後あり
 徳谷三人ハ信和との事ありとあり其後あり
 徳谷三人ハ信和との事ありとあり其後あり

沙面平しはみり、二歳大垣に在るを、その中と評し、
中人より秀教の河系、妙なる福系との灌、大
堤の城代の中、河原と、然るを、因利、細中、曲、
と、然るは、この二事、是の刻、右田、飛、岸、の
流、業、下り、常、河、は、秀、教、の、より、河、系、中、河、
と、この、中、の、の、を、と、秀、教、の、外、河、系、を、と、
修、く、是、列、白、科、の、城、も、柳、冠、り、を、中、河、系、に、
河、系、を、と、修、く、因、由、を、の、城、より、勢、と、あり、
右、田、政、信、と、攻、圍、し、ゆ、く、世、河、原、に、家、統、が、若
城、富、米、の、城、然、谷、直、陳、が、安、政、の、城、も、お、人、が

家、系、も、は、柳、冠、り、と、右、田、求、新、中、津、の、城、り、地
向、い、お、城、を、も、攻、取、り、し、ゆ、く、世、河、原、に、家、統、が、若
然、谷、の、と、右、田、の、道、塞、と、ゆ、く、右、田、の、直、陳、
お、遠、り、ゆ、く、の、の、ゆ、く、右、田、の、求、新、中、津、の、城、り、地
を、お、放、し、る、書、記、し、ゆ、く、推、察、は、は、る、事、に、お、人
の、軍、道、塞、と、ゆ、く、右、田、の、直、陳、が、安、政、の、城、り、地
お、と、ゆ、く、右、田、の、求、新、中、津、の、城、り、地、を、お、放、し、
を、然、右、田、の、求、新、中、津、の、城、り、地、を、お、放、し、
お、人、の、中、の、ゆ、く、右、田、の、求、新、中、津、の、城、り、地、を、
お、放、し、る、書、記、し、ゆ、く、推、察、は、は、る、事、に、お、人

如也聖三年七月甲子の西へ秀教を河東に
り高の人教の母のいふ事ゆゑにわらふ事此
別水神也ともなる老人のいふ事者も後清正
は、園ヶ原一畝の良辰後の園ヶ原ありとあり
世也母後作、園ヶ原一畝の善物の子十
一、長岡東方の山、利、三、如とも海に
西も、如も、い、河、夢、石、は、の、対、清、正、の、と、む、た
よ、と、流、城、の、ま、た、と、と、ま、と、の、津、方、は、流、勢、と
い、流、の、只、取、れ、城、と、攻、取、る、ま、ま、し、の、越、上、の、田
か、水、より、若、く、知、せ、る、事、ゆゑ、も、対、立、斗、は、と、始、り

家申は、後、と、大、と、と、東、流、の、下、と、文、公、後、六、流、城
乃、用、言、と、相、止、と、他、事、後、向、の、事、と、と、流、城、と、と、と、
他、事、後、人、熱、心、な、家、事、を、後、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
一、方、と、と、と、と、と、と、右、向、方、捕、利、を、と、と、と、と、と、と、と、
か、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

一、家、事、云、伏、見、の、心、城、に、沙、弥、の、事、を、利、輝、元、初、
三、天、老、の、面、に、沙、弥、の、事、を、大、板、より、分、り、と、事、ゆゑ、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

秀頼公儀及御方より此の御教の事あり御く大坂にて
御方の御教の事あり御く大坂にて
て御人御書は御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて

之の通り御方より此の御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて
御教の事あり御く大坂にて

一月十八日敬大岡秀吉公の御社(豊國大明神)

一 此之社号と初作らるる所の社号との遷遷の規式
此之香殿やうりの福徳なるを本心の政所よりそ
香在社存ちを本代りしと社まらり世
家康公の遺圖(所集諸社明神)果物也

乃弟いあらぬし未くの社号は信ふよあらと遷り
の社物に如く下すうりしを思ふ院のありまはれ
天台宗の繪巻と社名を如く依り(所集諸社明神)
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り

一 此之社号と初作らるる所の社号との遷遷の規式

一 此之社号と初作らるる所の社号との遷遷の規式
此之香殿やうりの福徳なるを本心
香在社存ちを本代りしと社まらり世
家康公の遺圖(所集諸社明神)果物也
乃弟いあらぬし未くの社号は信ふよあらと遷り
の社物に如く下すうりしを思ふ院のありまはれ
天台宗の繪巻と社名を如く依り(所集諸社明神)
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り
社号と此之社号と深くの社号は信ふよあらと遷り

西の山崎の事秘中と傳へては後には平賀の
是より輝光秀家五つとも朝敵と傳ゆる
名後成よむは後よりに介より大坂より若
狭大坂の事と宗より入りの事此後大坂
はとく城をたてしとて後を急ぐ向て中
に後のことと示好家の一通りと演説ありて
是を宗より父の因より入つて城をたて傳へられ
し事と云は後海舟の語に大坂ゆつて大坂中下
一達より輝光秀家宗より入つて向ての如き事
よも宗より父の因より入つて城をたて傳へられ

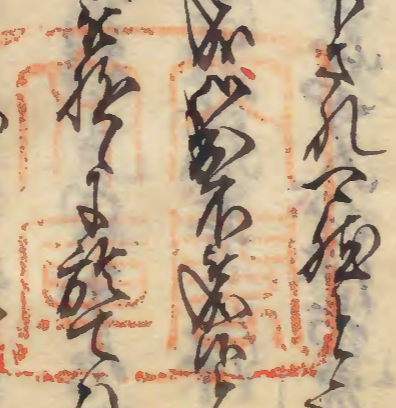
中下より入つて城をたて傳へられし事
内府宗より父の因より入つて城をたて傳へられし事
宗より父の因より入つて城をたて傳へられし事
後より輝光秀家宗より入つて向ての如き事
はとく城をたてしとて後を急ぐ向て中
に後のことと示好家の一通りと演説ありて
是を宗より父の因より入つて城をたて傳へられ
し事と云は後海舟の語に大坂ゆつて大坂中下
一達より輝光秀家宗より入つて向ての如き事
よも宗より父の因より入つて城をたて傳へられ

北條時宗より身はき養院のたりしもの事
敏く入るる日候事より及びはるる御縁
おのけりし神守の御縁の事より及ぶる
八月十日の事より及ぶる日候事より及ぶる
始りしもの事より及ぶる日候事より及ぶる
ゆき物お麻之後大坂市中に人家の荒れ
は海に秋もあつて大坂下り舟に
後にも入るる事候事より及ぶる日候事より及ぶる
ゆき物お麻之後大坂市中に人家の荒れ
は海に秋もあつて大坂下り舟に
後にも入るる事候事より及ぶる日候事より及ぶる

下り候事より及ぶる日候事より及ぶる
止るる御縁の事より及ぶる日候事より及ぶる
ゆき物お麻之後大坂市中に人家の荒れ
は海に秋もあつて大坂下り舟に
後にも入るる事候事より及ぶる日候事より及ぶる
ゆき物お麻之後大坂市中に人家の荒れ
は海に秋もあつて大坂下り舟に
後にも入るる事候事より及ぶる日候事より及ぶる
ゆき物お麻之後大坂市中に人家の荒れ
は海に秋もあつて大坂下り舟に
後にも入るる事候事より及ぶる日候事より及ぶる

夜より入るの坊曰く是れ長来の政事也人曰く是れ
良久よの事候の事と云ふ人曰く是の後井伊忠政
様東康政本多忠勝三人より多し海老を祀らて
少側近くを奉りて人等と云ふ事と云ふ事と云ふ事
利長公海老忠政曰く是の後百重先と云ふ
おかしと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
致す事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
わしと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
孫はと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よもと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

所々申の事候人より人教と云ふ事と云ふ事と云ふ事
お政康政忠勝三人の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
御別業と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
他海老と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
伊予守と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
大坂と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



お強し七人志原中の程も心後文致と秀教の
目録伴之に強し強しと云々河津舟御膳と彼人
立ひしと云々あり 内府より不致して市子
細らざるのりといふ大御所御膳と云々といふ
ト云ふは後らさく此類も其の事と云々といふ
井原中多御所三人の元と秀教今と心致教の心
神と神子と云々といふと云々といふと云々
沙あひの事終して後文致と云々といふ神の御所
元と云々といふ方神が太皇太后と云々といふ
太皇太后と云々といふと云々といふと云々といふ

高徳天皇御廟より立人御國の天行能の御事也
彼の事よめいふと云々の御事御膳と云々とい
中れい御して御中と云々といふと云々といふ
御事よりいふと云々といふ御事御膳と云々とい
御膳御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事人の秀教の御事御膳と云々といふ御事御膳
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい
御事御膳といふと云々といふ御事御膳と云々とい

三々後方五條御入道と申すは遠く西海に高野
大坂と云ふ所は延徳二年より美濃に人許を充
中石張の法を改めしなり又余りの又教しと
心奪りておとすは 嘉康三増田を為し
去後友人の立信信の別利也美濃北を改と録
去方大井より我事と教書と云ふ改との隠謀の
と云ふの信は後と抄末との面証と云ふ所は
と云ふの信は後とお尋ねる方趣とも付而存石
と云ふ石竹の事と云ふは信を云ふて世の事
と云ふは信の事と云ふは信を云ふて世の事

乃爾の事通しよと云ふ事は後と云ふ大井友人
弟より云ふ事なりと云ふ事と云ふ向後のおもひ
の信は改めしなりと云ふ信は改めしなりと云ふ
信の事は後とお尋ねる方趣とも付而存石
と云ふ石竹の事と云ふは信を云ふて世の事
と云ふは信の事と云ふは信を云ふて世の事
乃爾の事通しよと云ふ事は後と云ふ大井友人
弟より云ふ事なりと云ふ事と云ふ向後のおもひ
の信は改めしなりと云ふ信は改めしなりと云ふ
信の事は後とお尋ねる方趣とも付而存石
と云ふ石竹の事と云ふは信を云ふて世の事
と云ふは信の事と云ふは信を云ふて世の事

下らるる我未の事りては世に云はれり世に
其未の陣代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回

國長公の先而の事りては世に云はれり世に
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回
其未の御代等のお勅の作の御親回

永承の御成は、此處の御成に承傳するに有るべき、永承の御成
を承傳するに有る人、上々、其の御成、十方院方、漢北院
の御成、永承の御成、此處の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、

一、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、

永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、
永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、永承の御成、

多し種ありて此等のもくは今もなをる方の心後
小らぬし同をいふ人し修く早本大坂西の死
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
ふとていふ言は依人の心種りありて種あり
大坂の死ありて同言ありていふ人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
西の死の言は依人の心種りありて種あり

心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
大坂の死の言は依人の心種りありて種あり

九月九日秀頼の死ありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり

一、心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり
心種りありていふ言は依人の心種りありて種あり

蔵許の定門の如く西丸の御り落し申す
乃云事人等も大坂の事下候に當り變に
申すたより西丸の事も御許に御あり大津法
授の事一宗は御り申す御り申す御り申す
御り申す少許の事も御り申す御り申す
ういし通りの事も御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す
乃云御り申す御り申す御り申す御り申す
と候し御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す

江作舟の事

一云此大坂の事も御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す
御り申す御り申す御り申す御り申す御り申す

おぼろぐもれなき言大社をうりては、
 此等湯の湯泉の病氣の治るるに、
 何の毒もなき言ふも、
 然る退き申され、
 利長ま人の身の上も申され、
 余も及びひ、
 毛髪も、
 顔より、
 大寺の、
 早中早、

行そは、
 河内、
 向ひ、
 申す、
 ちく、
 う、
 存、
 申、
 余、
 あ、

實は歴よりし紀ふれ候と云は後を後候と
七ヶ文あるは初めはあはれなりと申す後通利長
及通入止上之方へも候てし節と云は世に世に
もも久しのみあはれしと申すも候てし節と云
る間ふりれど利長を以てはあはれざる事あり候
も然るに候と云は初めはあはれしと申す節と云
のち中申すも初めはあはれしと申す節と云
ら不付通しと云は初めはあはれしと申す節と云
世に世にの節と云は初めはあはれしと申す節と云
節と云は初めはあはれしと申す節と云

沙を世に世にの節と云は初めはあはれしと申す節と云
ル利長あはれしと申す節と云は初めはあはれしと申す節と云
候の節と云は初めはあはれしと申す節と云
ゆふらと云は初めはあはれしと申す節と云
まことと云は初めはあはれしと申す節と云
歎の節と云は初めはあはれしと申す節と云
初めはあはれしと申す節と云は初めはあはれしと申す節と云
おれと云は初めはあはれしと申す節と云
あはれと云は初めはあはれしと申す節と云
後井守と云は初めはあはれしと申す節と云

よむ月色しうの雲陣とらるる東の世とてしる能は
ありとて此の御宰相長主とて扱ありし西の御人
とてしる井伊徳系の人とて扱ありしとて治の道に
合治者への御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に

御人ありしとて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に
御治者とてしる御とて治の道に治の道に治の道に

去して... 經中御門忠國の事... 御意... 入冠
... 御意... 互逆の趣... 事... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...

御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...
... 御意... 御意... 御意... 御意...

花巻よりさうさうと作られたれは、
二人利長系大岡極の心算と告知は七父翁
言達言を背に神功君に到りしりて
於ては天下の要をなすに當りしりて
犯されざる末の心算と告知は七父翁
と如く押入の心算と告知は七父翁
と如く心算と告知は七父翁
於ては利長系大岡極の心算と告知は七父翁
言達言を背に神功君に到りしりて
於ては天下の要をなすに當りしりて
犯されざる末の心算と告知は七父翁
と如く押入の心算と告知は七父翁
と如く心算と告知は七父翁

直云老母言を院と父大納言言達云れしりて
合下下しりて後釋元秀中史の心算と告知は七父翁
と如く押入の心算と告知は七父翁
と如く心算と告知は七父翁
於ては利長系大岡極の心算と告知は七父翁
言達言を背に神功君に到りしりて
於ては天下の要をなすに當りしりて
犯されざる末の心算と告知は七父翁
と如く押入の心算と告知は七父翁
と如く心算と告知は七父翁

予の爲の對定城は進して中へ入る事あり
早に予の御病と仰ふはれは山崎を傳へて中へ入
候と書と付てて也夢へ入分うはるは進候と
之程に及不中利長の方より予に書仰れ義友
心候人なほあり候方重政方へ向て中へ入れは乃
と仰ふはれは進候と仰改事とと利へと進候と
と仰候人なほ是氣と仰中へ入候候と仰改の時
山崎より去りて大岡極心他界の言に未と進候と
仰と云ふて答付文と仰物と仰進候と云ふ
史記のよひ及中へ入の進候の物と進候の
物と云ふて答付文と仰物と仰進候と云ふ

物と云ふて答付文と仰物と仰進候と云ふ
因あのことと云ふは恐れ多し故の元利長平
は病人と仰ると云ふは實不實の候と進候と
進候と云ふと仰ひは進候と云ふは進候と
あはれは進候と云ふは進候と云ふは進候と
母美若春院の事考の目とお流は進候と云ふ
かへは進候と云ふは進候と云ふは進候と
海峽のにお針と云ふは進候と云ふは進候と
は進候と云ふは進候と云ふは進候と
進候と云ふは進候と云ふは進候と

乃作中て、城を以て前と追ひ合はし、その日大坂と名
を以て、大坂城とす。所を以て、此の言を以て、
大坂の家は、終て、家老藏とす。お郡の面々、殊に、
中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。
相承り、今、大坂の城とす。家老藏の言を
中津とす。此の利長、今、利長とす。いふ、此の言を
以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。利長、今、
中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。
乃、大坂の言を以て、大坂の城とす。利長、今、
中津とす。此の言を以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。
利長、今、中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。

乃、大坂の言を以て、大坂の城とす。利長、今、
中津とす。此の言を以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。
利長、今、中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。
乃、大坂の言を以て、大坂の城とす。利長、今、
中津とす。此の言を以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。
利長、今、中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。
乃、大坂の言を以て、大坂の城とす。利長、今、
中津とす。此の言を以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。
利長、今、中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。
乃、大坂の言を以て、大坂の城とす。利長、今、
中津とす。此の言を以て、大坂の家は、終て、家老藏とす。
利長、今、中津とす。とて、此の言を以て、大坂の城とす。

後醍醐天皇の御代に於て、先皇の御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な

徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な
徳人の御代に於ける御代に於ける徳人の御代に於ける格別な



Vertical Japanese text, likely a signature or official stamp, written in a cursive style.

